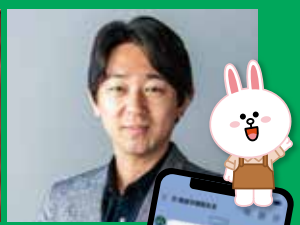
報友

報徳学園同窓会誌

V1

第23回全国高校選抜ラグビーフットボール大会



巻頭特集　報友会LINE公式アカウント

▶小説とは書けないリアルを表現する写し絵だ！
OB Voice Special Interview
塩田武士氏
第88回卒　小説家

▶OBたちの同窓会情報
東京支部便り
同窓会報告

▶躍進著しい運動部
ラグビー部（全国高校選抜大会優勝）

▶クラブOB必見情報
Hotoku Sports OB Club
108回卒の西垣雅矢さん
楽天ゴールデンイーグルスから6位指名で入団

活躍するOB監督!!
永田裕治さん（72回卒）　西谷浩一さん（78回卒）

▶報徳監督列伝

報友会

2022年　Vol.36

報友

Contents

P.1	報友会LINE公式アカウント	P.22	報徳監督列伝	P.34	報友会規約
P.4	東京支部便り	P.27	同志社大学報徳会	P.35	決算報告
P.7	報友会ごあいさつ	P.28	室内練習場贈呈		慶弔内規
P.8	OB Voice Special Interview 作家　塩田 武士氏		人命救助 感謝状贈呈	P.36	報友会からのお知らせ
P.12	「ために」ではなく「ともに」の発想 報徳学園理事 中桐 万里子氏	P.29	授賞詩集『奄美徳之島』より 坂木 玄理氏	P.37	広告
P.14	Hotoku Sports OB Club	P.30	母校の今、近況報告	P.43	寄付金募集のご案内
P.18	部活動報告	P.32	第60回兵庫県高校総体 マスターズ甲子園 兵庫県予選	P.46	編集後記
		P.33	HOTOKU NEWS		

ごあいさつ

新しい試みで活性化を図ります
（報友会公認・公式LINEアカウントの作成）

報友会幹事長
松浦　雅明
（56 回卒）

報友会の皆さまにおかれましてはご健勝にご活躍のことと お慶び申し上げます。平素から報徳学園へのご理解ご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

一昨年度よりのコロナ禍によって世界中が激震しているさ中のロシア軍によるウクライナへの侵攻。この時代に起こって欲しくない、2 つの出来事が地球を席巻しています。そして同じ時代に我が〝報友〟も新しい試みをスタートさせています。報友会 LINE 公式アカウントを立ち上げて報徳学園のうれしい情報がアップデートされます。同窓会誌に於いても時代に即した対応を求められております。ここ数年試行錯誤を繰り返しながらいまを生きる〝報友〟に新しい形で最新の報徳学園を皆さまにお届けできる様邁進しております。

皆様方のご協力ご理解を頂きながら新しい形の〝報友〟ワールドを作り上げられます様頑張って参ります。
いつも いつでも〝報友〟であり続けたいと思っております。

学校長
元田 利幸

春分の候、報友会の皆様におかれましては、長らく続く新型コロナ禍にあって、いかがお過ごしでしょうか?

日頃より様々なお心遣いを始め、本学園の教育活動にご理解とご支援を賜っております皆様に厚く御礼申し上げますとともに、ご健勝とご活躍を祈念しております。

さて、私が校長に就任し早 1 年が過ぎようとしています。この 1 年、刻一刻とその姿を変え人類に猛威を振るうウイルスと共生しなくてはならない日々の中で、学園行事の延期や中止、代替行事への移行等、例年とは違う学園生活を強いられています。それでも、生き生きと美しく輝きを放つ生徒や彼らを導き支える先生方の姿に感動を覚え、今更ながら、私は校長としての責任を感じているところです。

令和 4 年に入り、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株感染拡大の中、1 月中旬の 3 日間に渡る中学校入学試験、2 月中旬の高等学校入学試験や報徳学園高等学校卒業式等、重要な諸行事を終えたところで突然勃発したロシアによるウクライナ侵攻に、皆さんと同じように驚き、日々不安な気持ちでいっぱいです。

2 月 24 日までは、晴れて本校に入学してくる中学生や高校生に、どんな夢を抱かせてあげられるだろうかとワクワクした気持ちでした。しかし、この日以来、テレビをつければ、ウクライナ関連の報道やニュースを探してリモコンから手が離せず、私の両目はウクライナの人々が避難する姿や瓦礫と化した建物等に釘付けになっています。改めて、日本の「平和」について考える日々が続いています。

私たちは、新型コロナウイルス感染症を始め、地球温暖化、気象変動など、地球規模で人類が共に解決に向けて協力し合わなくてはならない時代を生きています。今回のロシアによるウクライナ侵攻についても、早期解決に向けて、人類が手を携えて平和を取り戻さなければなりません。そのためには共通認識が必要です。その共通認識を構築するのが「教育」なのです。「教育」が人類の「平和」を支えているのです。

報徳学園の建学の精神である二宮尊徳翁の報徳思想は、江戸時代末期の天変地異、飢饉、疫病、貧富の差の拡大、農村の荒廃の中で、荒れ果てた人々の心に生きる展望を与えようとするものでした。尊徳翁の言葉に「我が道は、人々の心の荒蕪を開くを本意とす」がありますが、この「心の荒蕪を開く」とは「心田開発」すなわち教育のことを指します。

私は、二宮尊徳翁が私たちに託された報徳思想で、より良い社会、明るい未来を築ける生徒、人類の平和に寄与できる生徒を教職員一丸となって育成してまいります。これからも同窓の皆さまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

報友会
LINE 公式アカウント
@510lxxvh

友だち募集中

報徳学園のうれしい情報がスマートフォンでみられます

活躍する OB 情報 !!

頑張る報徳現役生の情報 !!

OB のお店や企業の紹介 !!

今の報徳学園がわかる !!

報徳まつりや各種イベントのお知らせや出欠 !!

©LINE

報徳学園報友会が公認している LINE公式アカウントを始めます!

報徳学園報友会でライン公式アカウントを始めました。
同窓生の情報はもちろん、イベントのお知らせや
現役生徒の活躍等の情報を定期的にアップします！
そして創立110年を迎えた報徳学園をより一層応援していきましょう！
まずは下記の登録の手順（STEP①～④）に添って友達登録から始めてください。

LINE ぜひご登録してください！

ここを撮影

ここを撮影

STEP 1

QR 読み取り

LINE ID:@510lxxvh

QRコードを撮影してください。
もしくはID【@510lxxvh】を検索してください。

STEP 2

報友会のライン公式アカウントが表示されます。

STEP 3

報徳学園報友会を追加

赤枠の追加をタップして登録してください。報徳学園報友会に登録できます。

STEP 4

登録完了

登録が完了すると、報友会LINEからメッセージが届きます。

活動報告や最新情報などが配信されますので、ぜひご登録ください！

HOTOKU NEWS

現役報徳生の活躍を特集としてピックアップしてお知らせします。

OB NEWS

報友会（OB）のメンバーをピックアップしてお知らせします。

OBグルメ

OBの飲食店や報徳学園を愛する関係者のお店をピックアップします。全国に報友会メンバーのOBたちがたくさんいますので、随時お知らせをしていきます。

クラブ活動

日頃の運動部と文化部を活躍をお知らせします。
皆さんで母校の応援を精一杯しましょう！

イベント

報友会の報徳まつりのお知らせは勿論のこと、学校の入試学校説明会やクラブ活動のイベントなどもお知らせします。

OBビジネス

OBの会社を紹介します。どのようなお仕事をしている等の広告です。日頃の皆様のビジネスにもご活用ください。特典ありかも!!

東京支部便り

東京支部幹事長
稲川 慎一郎
〈71 回卒〉

報友会の皆様、日頃は報友会東京支部活動にご支援とご協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

毎年「報友」に東京支部の 1 年間の活動や、支部総会の報告をさせて頂いていましたが、新型コロナウイルスが蔓延の為、支部総会は勿論、常任幹事会や報徳サミット、東京報徳会、在京学生との BBQ など、計画していた行事が残念ながら全て中止になってしまいました。

世界中の新型コロナ蔓延が早期終焉になり、平常の生活が早く戻る事を心から祈ります。

東京支部は昭和 60 年頃、当時の福島守雄学校長が上京された時に、先輩諸氏の親睦と旧交を温めてきましたが、昭和 62 年になり東京支部創設の気運が盛り上がりました。そこで卒業回数 30 回～ 32 回卒の有志が中心となり、平成元年東京支部が設立されました。

初代支部長には半田利晴氏（31 回卒）が就任され東京支部の基礎を作られました。その後、安部忠廣氏（39 回卒）大原和男氏（43 回卒）追原篤男氏（53 回卒）と引き継がれています。

【東京支部の役割は】

①母校の発展に寄与する事
②関西から上京して東京で孤軍奮闘、頑張っている同窓生の絆を強く結んでゆく事
③関西以北で報徳学園の知名度を上げる事が役割であり、存在意義があると存じます。

そこで、支部総会では学校長を始め幹部の先生方や各運動部監督、同窓会からは会長・幹事長を始め重要役職者をお招きし学園の現状や、大学進学状況、運動部の活躍をお聞きし、情報交換を行っています。在京の学生諸君を招待し先輩や同級生との懇親、野球部、ラグビー部を始め、各クラブの世代を超えた楽しい交流をしています。

金次郎会（ＯＢが経営する飲食店でのビジネス交流会）やゴルフ会・歩こう会も開催しています。

支部の応援歌としてニシオカ・ナオト氏の作曲の「俺たちの報徳」は皆で歌うと青春を思い出し熱い気持ちでわくわくします。

学園の知名度を上げ、報徳関係者との交流を深める為に、報徳サミットや東京報徳社、国際報徳思想研究会等の会合に積極的に参加しています。

2022 年東京支部総会予定

11 月 18 日（金曜日）　会場未定

東京在住で支部に未登録の方は、是非報友会本部にご連絡下さい。

連絡先

報徳学園報友会事務局
〒663-8003　西宮市上大市 28-19
TEL：0798(51)3021

2022 年 4 月 1 日東京支部役員

役　職	卒業回	氏　名
名誉顧問	(特)	大江　一精
最高顧問	39	安倍　忠廣
顧　問	31	佐々木　叶
相談役	40	衣笠　宏
相談役	40	木地　賢一
支部長	53	追原　篤男
副支部長	57	大東　和美
副支部長	65	西本　靖彦
副支部長	65	中島　典夫
幹事長	71	稲川慎一郎
副幹事長	84	藤原　豊樹
副幹事長	87	永本　琢也
監　査	51	松本　欽吾
監　査	51	清水　正樹
常任幹事	50	坂木　玄理
	51	大野　暉
	60	岩井　茂
	63	古市　宣
	69	太田　剛
	71	矢野　和哉
	74	久保田　譲
	75	芦田　隆
	76	高橋利喜夫
	87	倉増　拓
	87	仕田中　格
	91	衛藤　晋吾

役　職	卒業回	氏　名
幹　事	51	吉永　忠成
	51	広瀬　忠
	53	田畑　雅夫
	57	岩井　胤夫
	57	佐野　邦臣
	62	金沢　真哉
	62	坂本　庄造
	63	大山　文雄
	65	林　正和
	75	中村　琢磨
	78	横田　優一
	85	吉川　康介
	86	三好　雅之
	89	吉田　一真

東京支部便り

東京支部長
報友会副会長
追原 篤男
〈53 回卒〉

東京1964オリンピックと東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 2回のオリンピックに携われて

昨年の 7 ～ 9 月コロナ禍の中、無観客開催でしたが、日本で 2 回目のオリンピック・パラリンピックが開催され、野球を始め、柔道、ラグビーなどアスリート達の素晴らしい活躍や、パラリンピックでの車椅子ラグビー、バスケット、ボッチャの選手から涙が止まらない程の感動と勇気をもらいました。今回は主としてパラリンピックを中心に支援致しましたが、実は 57 年前の東京オリンピックにも、私の青春時代の熱い思い出があります。

昭和 38 年に報徳学園を卒業し中央大学に入学、夏休みに自動車の運転免許を取得し、友人の父が経営する新宿の運送会社で、時間のある時に運転手のアルバイトをしていました。

高校時代は柔道部で寺島監督に鍛えられ、力仕事には自信があり、結構楽しい仕事でした。

昭和 39 年 10 月に東京オリンピックが始まりましたので、大会事務局に派遣され各種資材の運送をしていました。最終日の 10 月 21 日、大会役員が血相を変えて運転手控室に飛んできて、『大変だ、あの荷物を運んでいなかった!』と叫び『すぐにあの荷物をトラックに積んで甲州街道を調布まで走れ』と怒鳴りました。控室には私しかいなかったので、慌てて直径 1.5 メートル高さ2メートルの円錐形の荷物をトラックに積み込みました。するとパトカーと白バイがサイレンを鳴らしながら近づき、パトカーに乗り込んだ大会役員が、「トラックで後ろに付いてこい」と怒鳴り、白バイが先導して走り出しました。しばらく走り赤信号で停車すると、白バイが戻ってきて『止まるな、直進しろ』と又、怒鳴られました。それからはパトカー先導で信号無視で突っ走りました。

甲州街道に入ると街道の両側には警察官が 20 ～ 30 メートル間隔に立ち、交通規制が始まっていました。その中を全速力で 20 ｋｍ先の調布に到着、指定の場所にその荷物を設置しました。その荷物とは『マラソンの折り返し標識』だったのです。東京オリンピックの最後を飾るマラソンのスタートが始まろうとしていたのに、大会事務局の手違いで、まだ折り返し標識が設置されていなかったのです。関係者は大慌てだったでしょうね。

もし、私がその場に待機しておらず、折り返し地点の標識設置が間に合わなければ、「はだしのアベベ」や「円谷」選手が折り返す事ができずに、まだ甲州街道を走っていて、東京オリンピックが終了していなかったかもしれませんね。今では、調布の味の素スタジアム横に、私の功績を讃えるような、折り返し地点の記念碑が建てられています（笑）。

今回の東京2020ではライオンズクラブでパラリンピック支援活動を致しました。

2004 年同和火災の関連会社社長の時代、世界最大のボランティア団体、ライオンズクラブ国際協会の、1952 年日本で最初に設立された東京ライオンズクラブに入会しました。

そのモットーは報徳の基本理念に近く、盲導犬育成街頭募金などの視力障がい者支援や、マニラの貧困地区での学校建設、ミャンマーでの中高一貫校へのコンピューター教室開設など青少年健全育成や、東日本大震災復興支援等、様々な奉仕活動を行ってきました。その後クラブ会長、リジョン チエアマン等を歴任、4 年前にオリンピック・パラリンピック支援委員長に就任しました。全国のライオンズクラブメンバー 10 万人から 5 年間に渡り、約5億円の支援金を募り、「We　Serve」をモットーに素晴らしい仲間と共に、下記 5 件の支援事業を行いました。

1 パラリンピック出場を目指している次世代選手への支援事業

NF（国内競技連盟）日本代表選手以外の、その一歩手前のパラ選手に対する財政的支援を行い、2 年間で延べ 334 人に約 2 億円の活動支援を行いました。その内 60 名が日本代表入りを果たし、9 名の選手が 10 個のメダルを獲得してくれ、大きな成果と感謝を頂きました。

2 新国立競技場付近にライオンズモニュメント設置東京2020のエンブレムをデザインされた野老朝雄氏の設計による

モニュメント（直径 1,2m 高さ約 8m）を東京体育館敷地内に設置

3 樹齢1000年のオリーブの樹（スペイン産）を植樹

古代オリンピアに因みオリーブの木を新国立競技場前セキュリティエリア内に 2020 年 3 月植樹しました。

4 パラリンピックメダリストへの報奨金の贈呈パラリンピック競技大会でメダリストを輩出した14の障害者

スポーツ団体に対し、引き続き障がい者スポーツ全体の発展に寄与することを目的とする、活動助成報奨金を贈呈しました。

5 障がいを持った子供達1500名をパラリンピック競技会場へ招待

コロナ禍の為無観客開催となり、子供達の健康を鑑み観戦招待を中止しましたが、選手たちの勇気と感動を共有してもらう為、参加予定だった子供達に、特別報道写真集の贈呈をしました。

日本で開催された2回のオリンピックに携さわる事ができ幸せで、生涯の思い出になりました。報徳とライオンズクラブに感謝いたします。

報友会　ごあいさつ

副幹事長（広報部兼任）
中村 和史
（69 回卒）

新緑の候、報友会の皆様におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は報友会へのご理解、ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昭和５０年に報徳学園高等学校に入学しそこで少林寺拳法部に入部をして位田先生、諸先輩方、同期の仲間、後輩に出会い高校時代の教え、出会いが自分の人生に大きな影響を与えてくれたことに感謝しております。今、思えば高校生の時に誰に出会うかによって人の人生は大きく変わることが出来るのではないかと思います。高校時代に報徳の精神、そして少林寺拳法の教えを学び、若い時には理解も出来ず、まだギラギラしてた自分が居ましたが、年齢を重ねるとともに素晴らしい教えで有ることが判りこの学校を卒業して良かったと思えるようになりました。

今、世の中の変化が速く、昔の常識が間違えてるような風潮になってきてますが、人間としての基本は二宮尊徳先生の教えではないでしょうか。我が恩師でもある位田先生が卒業してからでもお会いするたび常に報徳訓を説き、指針を示して頂いているのには感謝しております。我が息子たちも報徳に入学し現在では社会人として生活しております。

今、６０歳も過ぎ思うことは、良い大学、良い会社に入ることも大事かもしれませんが普通に社会で活躍し自分の道を歩いて行ってくれることを願い、いずれ結婚し子どもが出来、孫を抱かしてくれるような当たり前の人生を歩んで行って欲しいと思ってます。報徳報友会のお手伝いをさせて頂き早10年以上が過ぎましたが、母校のためまた後輩たちのために微力ながら協力していきたいと思います。

今後とも、報徳学園、報友会に対しましてご協力、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

小説とは書けないリアルを表現する写し絵だ！

88回卒 **塩田 SHIOTA 武士 TAKESHI**

しおた たけし
88回卒／1979年、兵庫県生まれ。小説家。2010年に『盤上のアルファ』で第5回小説現代長編新人賞を受賞し作家デビュー。『罪の声』で第7回山田風太郎賞、『歪んだ波紋』で第40回吉川英治文学新人賞を受賞。『罪の声』『騙し絵の牙』が映画化された。

報徳学園で育った6年間 たくさんの友人ができ、伸び伸びと育ててもらいました。

記者時代に培ったジャーナリズムを武器に、今、社会派作家として大活躍。満を持して発表した小説『罪の声』は、1984～1985年に起きた昭和最大の未解決事件のひとつ、グリコ・森永事件を題材にしている。
中学校から高校までの6年間、報徳で学んだことが今は生きているという。そんな塩田さんの人柄をご紹介します。

©森 清

Q.1 自身の生立ちをお聞かせ下さい

兵庫県尼崎市生まれ。両親と姉の4人家族で子ども時代を過ごしました。

Q.2 なぜ、報徳学園に入学したのですか?

小学校6年生になった頃、母親から中学受験の話がでました。希望校は他校だったのですが報徳学園中学校へ入学を決めました。
ところが男子校は想像以上に楽しく、本音で話ができて気を遣わず一緒にアホができる仲間がたくさんできました。笑いがとまらない毎日でした。
先生方もそんなアホをする私たちを受け入れてくれまして、参観日では個人個人の発表があり、個性溢れる解答が大盛りあがりで、母親も笑顔がいっぱいでした。私はそのトリを任されるようになり、ちょっと誇らしく語りました。ただ、お題は「なぜ宿題をサボるのか」でした（笑）
高校生となったときは国際科というコースを選択しました。高校3年生の春には受験勉強のため心を入れ替え、朝は登校前に机に向かい、昼休みには英単語を覚え、帰宅後も予備校へ通いました。高校3年生はとにかく勉強を頑張りました。それは姉から教わった関西学院大へ行けばモテるよ!の一言でした。実際は…でした。

Q.3 報徳時代の思い出 心に残ったエピソードなど

報徳での6年間は数えきれないほどの思い出はあります。このご時世、話せないことも多々ございますので省略しますが、渡川先生の「男として」の授業や、亀田先生の「生きるため」の授業など、熱くご指導していただける先生方が多く居られました。私はよく怒られていましたが、クラスには強い結束感がありました。修学旅行ではクラス対抗の余興があったので中学時代では

吉本新喜劇、高校時代ではコントをしたり、とにかく毎日よく笑っていました。部活動は中学時代にバスケットボール部でクタクタになるまで汗を流しましたが、高校時代は放送部を選びました。理由は体育祭に放送部が実況をするので、競技には出なくても良いということでした。たがそれも面白く実況をするとウケたので3年間の思い出に残っております。男子校特有の「勢い」が性に合っていました。

Q.4 この当時から読書が好きだったのですか?

母が松本清張さん好きで、幼少のころから読み聞かせが清張さんのどす黒い人間ドラマでした。

Q.5 影響を受けた人、及び書物等がありましたか?

作家では松本清張さん、山崎豊子さんです。あとは坂本龍一さん、羽生善治さん、松本人志さんです。

Q.6 高校時代、『お笑い』に興味があり漫才師を目指したと伺いましたが、その真相は?

スベり倒して解散しました（笑）。でも、漫才の台本を書いていた経験が小説の会話文に生きています。

Q.7 どの時点で、その夢を諦めたのですか? また、その時のエピソードもお聞かせください

受験前には才能の限界に気が付き、高校3年の春ごろに解散しました。大阪の南港で開かれたお笑いコンテストで、当時お笑いコンビ「LaLaLa」だった、たむらけんじさんが審査員で、彼がしゃべり過ぎたせいで時間が押し、持ち時間が1分になってしまいました。そのせいで思い出したくないぐらいスベり、43歳の今もちょっと恨んでいます（笑）。

Q.8 関西学院大学に進学し神戸新聞社に奉職されました。現在の作家として生きていく決心をしたのはいつ頃のことでしたか?またその切掛けとなるエピソード、経緯などをお聞かせください

漫才に失敗をし、劇団に入っても居場所が見つからず、それでも「どうしてもエンターテインメントの世界で生きていきたい」という思いは枯れることがありませんでした。大学1年の夏、自動車教習所のベンチで読み始めた藤原伊織さんの『テロリストのパラソル』という小

説が面白くて夢中になり、その場で読み終えました。教習所の学科の授業を受けそびれて損をしましたが、それよりも自分の進むべき道が見つかったことに大きな喜びがありました。自分は人とものをつくるのが苦手で「小説家なら全て自分で決められる」と気が付き、作家として生きていくことを決意した次第です。

Q.9 現在、社会派小説というジャンルで、限りなくノンフィクションに近い切り口で次々に興味深い作品を発表されていますが、高校時代に目指したお笑いから一転、シリアスなドラマを紡ぐようになったそのギャップに興味が湧きます。この心境の変化に何か隠された思いがおありでしょうか?

新聞社での10年の記者経験の影響が大きいです。実際に紙面にできるのは取材の1、2割で、書けないところにこそ人間があり、社会があります。「これを書いたほうが伝わるのに」と思っても、色々な制約があって書けない。ジャーナリズムは事実をつたえていますが、実際に世の中にでる情報は「編集」されたものなんです。8割方カットされます。だから残り8割の部分を書くのが小説家の役割だと考えています。

また、虚実の間には魔力があり、その力に魅せられてもいます。もちろん、松本清張さんと山崎豊子さんから学んだことも多くあります。

Q.10 本校出身で作家として生計をたてておられるのは塩田さんが初めてだと思います。また、浮き沈みの激しい業界だと素人なりに推察致しますが、この道を志した熱い思いをお聞かせください

世の中には無数の職業がありますが、オーダーメイドスーツのように自分にぴったり合う仕事は小説家だけだと思っています。物語を創ることは呼吸するに等しく、この世界で生きていくことこそ人生なので、他の選択肢が見えないだけかもしれません。私は現代の作家として「ジャーナリズム」を背負っていきたいと思っています。

Q.11 ヒット作の一つ映画化もされた『罪の声』ですが、小説の基になったグリコ・森永事件はまだ塩田さんが子供の頃だったと思います。当時世間はキツネ目の男で大騒ぎでしたが、この事件を題材に取り上げようと思ったのは何故ですか?

グリコ森永事件当時、母親に「お菓子食べたらあかんで」（※1）と言われたこと、キツネ目の男の似顔絵が強烈に印象に残っていたことがベースとしてあり、大学3年のとき、大学の食堂で一橋文哉さんのグリ森関連の書籍を読んで、3人の子どもが利用されていることを知りました。その一番下の子どもは自分と同世代で、同じ関西で生まれ育っている…ひょっとしたら、どこかですれ違っているかもしれないと思い「この子の人生を書きたい」と強く思ったことが、執筆のきっかけです。

講談社文庫（2016年）刊行
第7回山田風太郎賞受賞作品

※1 このメッセージは実際の事件とリンクしており、容疑者の犯行声明のひとつとして当時の子供たちを震撼させた。

Q.12 あれだけ説得力のあるシナリオはやはり新聞記者時代からの地道な取材、資料の裏どりなど、大変な努力があったのでしょうね?

公開資料を中心に調べ、分からないところは関係者に聞き、現場を歩いて事件を整理していきました。また、イギリスの3都市をはじめ、登場人物が歩くところにも出掛けているので、臨場感を表現できたのではないかと思っています。

Q.13 作品を発表する上で、自分なりのルール、ポリシーなどはお持ちですか?

「なぜ今この物語を書くのか」「なぜそれが物語でないといけないのか」。この2つの自問をクリアしてから創作に入るようにしています。そして現代の作家が何を背負っているのか改めて考えたとき、わたしは「情報」だと思うのです。かつて、松本清張さんや山崎豊子さんは「戦争」を背負っていました。私は現代の作家として「ジャーナリズム」を背負いたいと考えています。

Q.14 今後どのような物語を構想としてお持ちですか?話せる範囲でお聞かせいただければ塩田ファンとしてこの上ない幸せです。

具体的には話せませんが、「リアリズム小説」を通して現代社会の一旦を表現することを目指し、警察小説や医療小説のように「報道小説」というジャンルを確立できないか、模索していきます。

Q.15 昨年封切された『騙し絵の牙』の見どころ、また過去に映像化された作品でも豪華俳優陣がキャスティングされています。映画製作にも携わることで興味深いエピソードがあればお聞かせください。(小栗旬の笑えるクセとか大泉洋の知られざる男気など（笑))

目の前でお酒のグラスを傾ける小栗旬さんは絵画のようにかっこよく、それなのにかなり気さくで、場を盛り上げるのが上手です。星野源さんは気遣いが細やかで穏やか。常に新しい表現について考えている現代を代表する才人。大泉洋さんは一瞬で輪の中心に立ってしまう、生まれながらのスター。テレビのままお茶目で優しい方で、お店の予約までしてくれます。

報友（報徳学園同窓会）読者へのメッセージ

悩める若者（報徳生）はたくさん本を読み、多くの方と直接会って語り合ってください。部活動や大学受験等で大変でしょうが、今周りにいるのは生涯の友だちです。よく遊び、笑われるぐらい大きな夢を持ってほしいです。私は今でも報徳時代の仲間と話をするとホッとします。そして40歳以上の皆様、まずは日々のお仕事お疲れさまです。年に一回は人間ドックを受けて塩分を控え、健やかに生きていきましょう!

塩田さんが在校生時代に書いた『進路だより』

平成10年5月発行　通刊65号

人間、嫌なことや面倒なことから逃げ出したくなるものである。しかしそれはいけない。一番しんどそうなことを攻撃的にこなしていかなければならないのだ。では、受験に置いて何が一番つらいのだろうか？答は「暗記」だ。いや、厳密に言うと「暗記を何回も繰り返して、記憶にすること」である。これがつらい。つらいけれども怠けるとスベる。「しんどいことから目を背けずに積み重ねていく。」これが受験の基本である。

次に、参考書のことを書いておかねばなるまい。オーソドックスなものは他の体験記を参考にしてもらって、僕は盲点になっていてセンスのある本を2冊ほど紹介しておこう。まずは「英単語バイブル」(ぴーぷる社)、これは絶対購入だ。機能語・多義語・語法が網羅されており実践に役立つものに仕上がっている。あと 1 冊は日本史の人のための必需品として「超よくわかる日本史 B」(学生社）を紹介しなければならない。この本を使えばほぼ確実に日本史の実力が安定するだろう。今回はこの 2 冊の紹介にとどめておくが、一般的に Z 会の参考書はセンスのある本が多い。

最後に一つ肝に銘じてほしいことがある。それは「あきらめ悪く貪欲に」ということだ。第 1 志望が決まったら、絶対に妥協してはならない。心配しなくても頑張れば 100％合格できる。関関同立と聞いて怯むことはない。やってみると意外に簡単なことだと気付くはずである。少なくともバナナの皮ですべって転ぶ人間を見つけるよりは簡単である。

「ために」ではなく「ともに」の発想

報徳学園理事
中桐 万里子
NAKAGIRI MARIKO

プロフィール

1974 年、東京生まれ。現在は京都市在住。
二宮金次郎昆孫（七代目子孫）。幼い頃より同居していた祖母（貞子・五代目）から金次郎の話を聞いて育ちすっかり「金次郎オタク」として育つ。
慶應義塾大学を卒業したのち、京都大学大学院にすすみ教育学の博士号を取得。学校など教育機関の教職員や子育て中の家族らのコンサル活動をおこなう臨床教育が専門。
2007年より、子育て支援機関（親子をつなぐ学びのスペースリレイト）の代表をつとめている。聖和大学や関西学院大学にて、幼稚園教諭を目指す学生の指導に約 10 年あたり退職。
現在は、株式会社ケー・エフ・シー社外取締役、株式会社 WOW Holdings 取締役、国際二宮尊徳思想学会常務理事、大日本報徳社参事なども兼務。さらに、全国で企業研修や講演活動、学校での特別授業なども担当している。
著書には『二宮金次郎の幸福論』『二宮金次郎に学ぶ生き方』などがある。
なお、2020 年からは報徳学園理事にも就任している。

この国には、100 年以上つづく企業がすこぶる多いです。一説には、全世界の 100 年企業のうち 80％が日本企業だとも言われています。世界人口のうち、日本人という人種は2％ほどなので、ちょっと驚異的?な割合とも言えるかもしれません。

しかし、あらためてこの国の近い 100 年をふり返れば、戦争や自然災害など、致命的とも呼べる多くの困難が起きた期間です。いったいなぜ、こんなに大変だったのに存続ができたのだろう…との素朴な疑問が生まれます。わたしの友人は数年に及び、実際の 100 年企業を次々と訪問し、直接この疑問をぶつけてみたそうです。その結果「大変だったのにつづいた」のではなく、むしろ「大変だったからこそつづいた」のだと、はっきり感じるようになったと教えてくれました。

金次郎は言います。樹木が傷つくと、木なかの水液がさかんに集まってきて、これを治そうとする。そうしないと傷口が腐って、芯までが朽ちてしまい、ついには枯れてしまうことを知っているからだ。一家の借金もこれと同じで、家族一同や親族までもが、こころを合わせ、力を合わせてその借金に対応したらよいのだ。それができないと、利息がどんどん増え、一家はそのために朽ちてしまう。一つの村にある貧しい家についても同じこと。村の住人たちで集まって、その家を立て直すにはどうしたらいいか相談し、知恵を絞ったらいい。それができないと、一軒ずつ倒れてゆき、人口が減り、田畑が荒れ果て、ついにはその村が芯から衰退する要因になりかねないのだ…と。

楽しいこと、嬉しいこと、愉快なこと、わくわくすること…。きっとそれは、多くのひとが共有してくれると思います。でも、辛いこと、かなしいこと、苦しいこと、困難…。それをともにしようと、喜んで?わざわざ集ってきてくれるひとは、実のところそんなに多くはないのかもしれません。けれどそんなときにこそ、ともに在り、その事態に一緒に向き合おうとしてくれるひとがいたら…。それが、自身の人生にとってどれほどかけがえのない存在か、その場で生まれる「絆」がどれほどつよいものになるか、は言うまでもない気がします。

100 年企業でも同じだったと言います。困難が起きたからこそ、社員が一層に一丸となる、知恵を絞り、絆が深まる…。芯が朽ちるどころか、むしろそれをきっかけに種火が芯からアツくつよく燃えはじめる…。そんなドラマに無数に出会ったと言うのです。

日本神話にも、似たような傾向がみられます。ともかく稲作の条件に合わない環境で、常に飢饉に苦しんでいた土地がある。するとそこへ、アマテラスというひとがやってくる。そして、その土地でどうやったら稲作ができるのか…を住民とともに必死で考え、見事にその地を「実りの地（瑞穂の国）」へと生みなおす。「棚田」という独特の技法などもまた、そのときに生まれたものだとか。住民たちは、このときのご恩を忘れまいと、この方をお祀りするようになり、神社ができた…と。

わたしは、大学を卒業して以後、京都で暮らすようになりました。このまちは、世界有数の観光都市でもあり、国籍を問わず多くのひとを魅了しています。そしてもちろん、住まう方々もまちに深い誇りを持ち、比喩ではなく「世界の中心は京都にあり!」との自負を抱いておられます。

このことをめぐって、京都は戦火に遭わず幸運だったから…とか、もともと歴史的な財産が多い地だから…とか。そう見立てられることが多い気がします。しかし、そうした理解は、ある意味で精確ではないと教えていただいたことがあります。

いまから 150 年前。明治維新による東京遷都にともない、天皇陛下とともにあまりにも多くの人間が、技術や知恵や文化が、そして財産が、瞬く間に京の地を去りました。周囲からは、「あそこはもうすぐタヌキやキツネしか住まない地になるだろう」と揶揄されていたそうです。それほど急激に、危機的な状況に陥ったわけです。時代を恨むこと、現状を嘆くこと、環境を呪うこともできたでしょう。あるいは、ある意味でこの事実を受け入れ、早々にこのまちを捨ててゆくひとも多くいました。しかし…。

このときまちには、そうした方向とは一線を画し、「ないなら生み出そう!」と、大きく舵を切った人たちがいたと言います。まちの力で、まちの未来を担う子どもたちを育て、まちを再建しよう…と。そんなコンセプトのもと、教育機関の建設に乗り出したのです。とはいえ、まち(行政）にお金があったわけではないし、教えられる人材がいたわけでもありません。「他力」を頼りにすることは一切できない状況でした。

そこで、まずは多くの空き家により、点在してしまっていた住人たちを集結させ、物理的な結束をはかることからはじめたそうです。そこに「番組」と呼ばれる、現在でいう自治会のようなものを導入しました。そして、各家にある「竈（かまど)」の数に応じた寄附金を集める運動を企画したのです。竈が2つあるような豊かな家は、2口の寄附。数軒が共同で1つの竈を利用しているなら、その数軒で1口の寄附…といった具合に。こうして町衆一人ひとりが自ら出資者となり、当事者となり、「竈金」と名づけられた学校建設資金の調達に取り組んだのです。まちの未来は、自分たちの力で創造しよう!と。

そうして、明治政府の動きよりも3年も早く、日本初の公的な小学校がこの地に完成しました。この小学校からは、多くの優秀な人材が輩出されました。危機的な状況下で、まちやまちのオトナたちが、自分たちに賭けてくれたことを知っている子どもたちは、その感動とともに、大いに才能を磨き、のちに多大なる貢献をする人物に成長しているのです。

わたしは、長いながい京都の歴史のなかでも、このあたりのドラマが大好きです。この地がもつ「誇り」の源泉には、傷ついたまちの現実と対峙し、そのときにまちとともに在ろうとし、自らの力を注いでその傷をいやそうと命を燃やした DNA があるのではなかと感じます。そして、その先輩たちの想いや行為に応え、自らもまた次代へとバトンを渡そうとしているのが現代の京都人なのではないかと。それは、単にキラキラした条件のよさに吸い寄せられて集ったのとは圧倒的に違う、力づよく深い根っこを持つ、人々の尊い在り方なのではないか…と。

報徳というワードは、こうした在りようとつながっているとわたしは考えています。京都のまちの子どもたちが、そして現代の京都人が、あのときに踏みとどまったまちのオトナたちに報いようとしているように…。自らが苦しいときに駆け寄ってくれたひと、困難なときに一緒にいようとしてくれたひと。そうした存在への感動や感謝によって、ひとが立ち上がり、背中を押され、一歩前へと歩み出ようとするように…。

金次郎は、ひとが「助けられた者」で終わることを嫌いました。誰かを助けてあげようとすることは、一見すると親切なようでありながら、実は相手を受け手に閉じ込め、相手の尊厳や主体性をふみにじる行為になり兼ねない、と考えたからです。もちろんひとは誰しも、傷つくこと、くじけること、折れそうになることはあります。しかし同時に、誰しもが、受け手で終わらず、次の誰かに貢献できる創造者としての力を持ってもいます。金次郎には、そうした人間への圧倒的信頼がありました。だからこそ、「ために」の発想ではなく、「ともに」の発想を尊び、「報徳」を呼びかけたのです。

徳を受けることはもちろん大事なこと。でもその次には、受けた徳に報いようとすること。恩返ししようとすること。もっと言えば、先輩からのものを後輩に、親からのものを子どもたちに、過去からのものを未来に…と、まさに「恩送り」しようとすること。そこにポイントがあるのだと。

今回のコロナ禍のように、現実とはほんとうに大変な場所です。思うようにならないこともいっぱいです。でも、そんなときこそ、いま一度「ゲンジツ」をみつめたいなぁと想います。あまりにも多くの先輩方が紡いでこられた歴史のうえに、わたしたちは立っています。もっと引き寄せて、自分が幼い頃からいままでの時間に宿る、たくさんの存在から受けていた助けや、想いや、エナジーを思い出すだけでも充分かもしれません。誰しもが、たしかに仲間をもって、ここまで来ることができたのではないでしょうか。決して一人ではない…。その素朴な事実に気づければ、自分の芯がポカポカと蘇り、次にゆくべく道が見えはじめるのではないか。…と、やや楽観的すぎるかもしれませんが、そんなことを想ったりするこの頃です。

HOTOKU SPIRITS

西垣雅矢選手が東北楽天ゴールデンイーグルスから6位指名を受け、入団が決定。皆さんで応援しましょう！

西垣 雅矢 選手
（108回卒）

Q ドラフト会議での指名を受けたときのお気持ちをお聞かせください。

A 指名がされるかどうか分からなかったので、とても緊張していました。ずっとプロ野球選手になりたいと思って野球をしてきていたので、とても嬉しかったです。

Q 東北楽天のイメージ、また憧れの選手をお聞かせください。

A ファンの方がとても温かいイメージです。エース級の素晴らしい投手の方々が多く活躍しているイメージです。早稲田大学の先輩、早川さんが居るので心強いです。憧れの選手は巨人の菅野投手です。

Q 報徳学園野球部で過ごした３年間、如何でしたか？

A 野球はもちろんですが、礼儀など人間として当たり前の事を指導していただきました。とにかく必死で野球をしていた記憶しかないです（笑）報徳生らしく勉強もスポーツも頑張りました。

Q 報徳学園での１番心に残っている思い出や試合を教えてください。

A 実はわたしの中で一番心に残る思い出は、甲子園出場の時でもなく、礒野先生との朝練習です。
毎朝、一緒に練習を付き合ってもらい、身も心も成長することが出来ました。時には意見が合わず、衝突してしまう事もありましたが、生意気な自分を突き放す事もせず、指導していただきました。

Q 報徳学園の野球部の１番印象に残っている練習メニューを教えてください。

A OBなら誰もが知っているトラックダッシュです。自分だけ良ければ良い、という甘い考えがこの練習では無くなります。この練習を苦手にしている仲間はたくさんいましたが、助け合って達成するという事を学べました。ですが、これぱかりは冗談なくキツすぎました（苦笑）きっと今でも伝統の練習だと思います。

Q 報徳学園に入学して良かったことを教えてください。

A 卒業してから気付いたのですが、野球部 OB の方に限らず、報友会の方々、先生方、保護者等の報徳関係者がとても応援してくれていると言うことです。年末に学校やグラウンドへ挨拶に行くたびにそれを実感します。特に、先生方には本当に感謝しています。

Q 投手としての強みと、プロでの目標を教えてください。

A ストライクゾーンの中で勝負していけることが強みだと思っています。目標は、故障をなるべく防ぎ、長く野球をすることです。報徳時代からより成長した姿をみせたいと思います。

Q 最後に、報友会へ、現役の報徳野球部員へメッセージをお願いします。

A 報友会の皆様、いつもたくさんのご声援をありがとうございます。ここからがスタートラインだと思いますので、引き続き応援して頂けるとありがたいです。１日でも早く、一軍で活躍している姿をお見せする事が出来る様に精進してまいります。よろしくお願いします。

報徳野球部員へ

日々の全体練習は厳しく大変と思います。今はコロナとの戦いもあり、苦労が絶えないと思います。
ただこんな時こそ出来る練習もきっとあると思います。
そこをしっかりとみつけてください。
私も報徳野球部ＯＢとして誇りをもって日々生活をしています。報徳のグラウンドで流した汗は必ず自信へと繋がります。甲子園出場を期待しています。辛抱して日本一！夏は是非とも頑張ってください。

西垣さんのサイン！
LINE 登録してくれた方を抽選で５名様にプレゼント！

LINE 友だち追加　LINE ID：@510lxxvh

第94回選抜高等学校野球大会

活躍するOB監督!!

報徳卒業生が誇る活躍するOBたち！
第94回選抜高等学校大会に出場する2校の監督をピックアップ。
両校とも地区のチャンピオンとしてセンバツへ挑みました！見事に大阪桐蔭高校は全国優勝！
お二人とも高校野球界を引っ張る逸材となり、報徳学園野球部卒業生として誇らしいです。
センバツ大会前後の取材となります。大会への意気込み等をインタビューしてみました！

日大三島高校監督
永田 裕治
YUJI NAGATA
（72 回卒）

×

大阪桐蔭高校監督
西谷 浩一
KOICHI NISHITANI
（78 回卒）

デイリースポーツ
（2022年1月25日）

神戸新聞
（2022年4月1日）

就任2年目38年ぶりの甲子園を決めた、日大三島高校

永田 裕治さん（72回卒）

選抜大会出場前のインタビュー

選抜大会出場、おめでとうございます。今春の日大三島高校のチームカラーを教えてください。

地区大会、県大会、東海大会ともダークホースどころか名前もあがらない状況でした。上品で大人しく戦力はありませんが一生懸命に頑張るチームです。

新天地（静岡県）へ移り日大三島高校で再び指揮（監督）をする、すごい決断だった思います。その時のお話をお聞かせいただけますか？

ご縁があり、日本大学副学長兼日大三島高校の校長先生に誘っていただきました。熱心に誘っていただいたので思い切って静岡の地へと選びました。

日大三島高校ではどのような生活をされていますか？またどのような学校でしょうか？

単身赴任で生活をしています。かなり上品で大人しい生徒が多い学校です。日頃は完全下校が20時、7時間授業が週に2度もあり、土曜日も授業が入るので週18時間授業をしています。2年生の担任もしており、1学年718名で21クラスがあり文化部が盛んなマンモス校です。富士山をバックに素晴らしい環境で生活しています。

公式戦では多数の報徳関係者も応援に来ていたとお聞きしました。一言いただけますか？

感謝しかございません。公式戦も多数の応援に来ていただきました。2021年秋に関西遠征もしましたが50人を超える人数だったと思いますが、足を運んで戴き喜びと共に感謝しかございません。

初戦は金光大阪高校。報徳監督時代の20年前も近畿大会で対戦したようですが、どのようなイメージでしょうか？

20年前に近畿大会決勝戦で元中日の吉見投手と対戦したことを覚えております。今と同じく粘りのある好チームです。胸をかりるつもりです。

後輩の78回卒西谷監督（大阪桐蔭高校）も選抜出場を果たしています。報徳での采配が最後となった西垣投手を擁する選抜大会時も出場がご一緒でした。何かメッセージをいただけますか？

今の高校野球界、日本一の監督であり戦力でもあります。一歩ずつ追いつきたいと思っています。

最後に、選抜大会への意気込みをお教えください。

一戦必勝です。日大三島高校の校歌を歌いたいです。

選抜大会終了後のインタビュー

自身4年ぶりの甲子園、また日大三島高校の監督として出場はいかがでしたか？

今までに感じたことないくらいの感慨深いものがありました。

選手らにはどのような話をして挑みましたか？

こんな機会はないのだから、思いきり緊張しながら戦いなさいと伝えていました。結果は残念でしたが、一生懸命に頑張ってくれました。

今後の目標をお聞かせください。

日大三島高校の監督として2年目で、声を掛けた選手が2学年揃いました。まだまだ戦える戦力ではないですが、一緒になって夢を追いかけたいと思っています。

「西の横綱」秋の日本一から聖地9度目Vへ、大阪桐蔭高校

選抜大会出場前のインタビュー

選抜大会出場、おめでとうございます。今春の大阪桐蔭高校のチームカラーを教えてください。

ひとつ上の学年の壁に阻まれ、ここまでなかなか試合の出場機会が少なく、やっと自分たちの年代となり試合に出たい！そんな野球に飢えていた学年だと思います。キャプテンを中心にまとまりのあるチームです。

近畿大会、神宮大会のチャンピオンとなりました。それぞれの大会で印象に残った試合をお教えください。

どの試合も大変で印象深いのですが、やはりそれぞれの大会の決勝戦と言うのは、日ごろから必ず勝たないと意味がないと伝えていましたので、近畿大会、明治神宮大会ともに決勝戦を勝ち切れたと言うことには意義があると思っていますので印象に残っています。

近年大阪桐蔭高校出身のプロ野球選手輩出が際立っています。どのようなことを教えているのでしょうか？またどのような練習方法なのでしょうか？

私が特に教えている事はありません。それぞれの者が努力し成長した結果と思います。特別な練習もありません。先輩の活躍が、後輩たちに刺激となり、目標になってくれている事は本当にありがたいです。

報徳学園の現役時代は大変ご苦労されたとお聞きしています。現役時代でのお話をお聞かせいただけますか？

高校3年生最後の夏の大会を、不祥事で対外試合禁止となり出場できなかったことが今でも心のどこかで引っ掛かっています。当時は何も考えることができないくらい落ち込み、先が見えない状態でした。ただ、今考えますとそんな中でも、同期を含めたくさんの方と出会い、先生方に教えていただいた事は、私の野球人としての礎となっており、育てていただいた報徳学園に感謝の気持ちでいっぱいです。

報徳学園野球部の現役時代にお世話になった北原元監督（46回卒）と高橋英二先生（元校長）がご逝去されました。それぞれの思い出話をお教えください。

北原先生には、在学中にはまだ1年生ですので直接ご指導いただいたと言う記憶はありませんが、私が高校野球の監督になり、甲子園で采配を振るようになった試合は、バックネット裏でご観戦いただき、お手紙をよく頂きアドバイスして頂きましたことが大変嬉しかったです。

高橋先生にはかなり鍛えられました（苦笑）現役当時は厳しさしか感じられませんでしたが、何とか食らいついて認めてもらいたい、そんな一心でやっていたことが懐かしい思い出です。

先輩の72回卒永田監督（日大三島高校）も選抜出場を果たしています。対戦はしたいですか？

就任2年で甲子園出場は凄すぎます。対戦？これはやりにくいのでできれば避けたいです。

最後に、選抜大会への意気込みをお教えください。

簡単ではありませんが、子供たちと共に春の日本一を目指し目標を達成したいです。私個人としましては、育てていただきました報徳学園にご恩返しがしたいです。良いご報告できますように精進いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

西谷 浩一さん（78回卒）

選抜大会終了後のインタビュー

第94回選抜大会を終えて、今のお気持ちをお聞かせください。

昨秋の明治神宮野球大会を優勝することができましたので、周りからマークされての大会で非常に厳しい大会になると思いましたが、粘り抜き優勝することができました。

大会の中で子供たちが成長したことを嬉しく感じています。またメンバーに外れている者含め部員41名で戦い抜けたことが何より嬉しいことでした。

圧倒的な強さを感じましたが監督として選手にはどのような話をしていましたか？

特別私から生徒に伝えている事はありませんが、今大会はコロナ禍であり、出場辞退や、試合を辞退された学校もありましたので、よりいっそう野球ができることに感謝し、心から野球をしようと言うことをこの大会合言葉にして戦い抜きました。

改めて強さの秘訣をお教えください。

強さの秘訣？それは分かりませんが、本校野球部は全寮制ですので、野球だけでなく日ごろの生活から全員で取り組み、大きな家族としてチームを作っています。チームワークはどこの学校にも負けないと言う自負があります。

今後の目標をお聞かせください。

昨秋の明治神宮野球大会、この春の選抜高等学校野球大会を重ねて優勝することができました。

簡単ではありませんが、この夏の大阪を勝ち抜き、全国高等学校野球選手権大会を優勝し、秋春夏3連覇を達成したい、そこにこだわりを持って子供たちと挑戦したいと思っています。

この選抜大会におきましても、報徳学園OBの方からたくさんの激励をいただき、ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。その皆様にご恩返しができますよう精進いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

部活動報告

ラグビー部　新たなる躍進の予感

創部90周年に賭ける想い炸裂！

3回戦（101回大会）に散るも実力は着実に進歩

BKの要・WTB海老澤

伸び代未知数の有望株・No.8石橋

長引くコロナ禍で従来のクラブ運営もままならぬ中、チーム力を落とすことなく常勝チームとして県下の覇権を守り抜くラグビー部。前期大会（第101回全国高等学校ラグビーフットボール選手権大会）においてもその存在感を遺憾なく発揮してくれました。

上位進出のカギとなるシード権は逃したものの、『1回戦屈指の好カード』とラグビーファン誰もが注目した強豪・茗渓学園との戦いぶりを見ても緒戦という固さは見られましたが、抜群のポテンシャルで茗渓自慢の展開ラグビーを封印し19対7と快勝で史上14校目の花園50勝を達成してくれました。続く2回戦はこれまた難敵である東北の雄・仙台育英を62対14と終わってみれば完全に主導権を握った圧勝で次々と強豪校を撃破する快進撃を見せてくれました。

そしてこの大会一番のポイントとなる3回戦、『ノーシード校最強チーム』という異名を携えて臨んだ一戦は、名実ともにNo.1の威光を放つAシード・東海大大阪仰星との大勝負。

仰星は後にこの大会の覇者となるのですが、試合巧者の攻撃にほんの一歩対応が遅れ、紙一重の攻防に臆し0対33とスコアの上では完敗を喫しました。しかし、決勝戦のスコア（仰星36－5国学院栃木）・準決勝のスコア（仰星42－22東福岡）・準々決勝のスコア（仰星45－7常翔学園）を見てもわかる通りチームの上位進出は決して手の届かない夢物語ではなくなったというところまで来ていると予感させるものでした。

実際、試合内容においてはスキル、フィジカルにおいても彼らなりのパフォーマンスを発揮し、今、自分たちができる最高のゲームを見せてくれたと思います。『タラ・レバ』はスポーツの世界では厳禁とされていますが、もしこのチームがシード権を得て別のブロックで勝ち上がっていたらもう一つ上（ベスト8以上）の世界が広がっていたかもと思わせてくれるような勢いのあるチームでした。

また、この大会での健闘が評価され、山村和也（21年度主将・CTB明治大学進学）、宮下晃毅（21年度・No.8法政大学進学）、石橋チューカ（現役3年・LO・No.8）、海老澤琥珀（現役3年・WTB）の4

君が2021年度高校日本代表候補2次メンバーに選出されたことも特質すべき点で、過去に1シーズン4名の代表候補を輩出するのも部史上初めての快挙となりました。また21年度兵庫県ラグビー協会発表の高校優秀選手19人のうち報徳から大塚優悟、稲田一聖、中村晃貴、芦高琉広、宮下晃毅、宮嵜純平、広田真士、山村和也、桃田涼平ら最多9名が選出されました。彼らの今後の活躍も楽しみの一つとなっています。

強い意思と精進で真の強豪校へ

さて、ここ数年その実力を評価されながら選考から漏れていたシード校の座ですが、そのからくりに少し触れてみたいと思います。

そもそも高校ラグビーにおけるシード権ですが、採用に至った経緯として甲子園とは異なり『実力の地域差』が第一に挙げられます。昭和45年度の第50回大会に一度導入され、昭和54年度の59回大会からシード制が復活し定着したという歴史があります。シード校の利点として1回戦を戦わず2回戦からの出場となり、3回戦まで互いにシード校同士の対戦は無いという点です。このアドバンテージは肉弾戦を伴うラグビーにおいて過酷なトーナメントを勝ち抜く上で大きなハンディキャップになりえます。

現在の高校ラグビーでのシード校選出方法の基本は

① 春の選抜大会での上位校
② 各地区大会での上位校
③ 夏の7人制大会での上位校
④ 国体での上位県

などの選考基準があり、大会実行委員会がシード委員会を主幹し関東、中部東海、近畿、中国、九州と地域別に候補校を選び、出来るだけバランス良く選出される傾向にあります。

その中にあって報徳は大阪（3校）・京都（2校）・奈良（2校）など強豪ひしめく全国一といっても過言ではない最大の激戦区（近畿大会）を勝ち抜かなければなりません。春の選抜大会に出場するにはこの近畿大会でベスト4以上に進出するのが条件。それに加えて2回戦敗退校4チームから抽選でプラス1校の5校がその枠に入れます。近畿勢代表というネームバリューは全国レベルでも無視できず、選抜大会2回戦を突破出来ればほぼほぼシード権を確保できたといっても過言ではないでしょう。

過去の報徳はこの近畿大会ベスト5の壁で苦汁を飲んできた経緯があり、幸か不幸かそのためシー

昨期主将山村三兄弟の末弟・
和也は兄に続いて明治大に進学

ド校並みの実力を持ちながら花園では1回戦からの出場を余儀なくされてきました。その結果、花園最多得点記録更新（第99回大会　報徳162－5山形中央）やノーシードからのベスト8進出など大会前半戦での話題を多く提供してきたのも事実です。そしてついた異名が『シードキラー』、『ノーシード爆弾』。判官びいきが今だに残る我が国の風潮で、『ジャイアントキリング』は利害関係のない観客にとって最高のエンターテイメントになり得ますが、当事者にとっては決して名誉ではありません。『弱者』という烙印を潜在的に刷り込まれた結果に他ならない訳ですから。

選手の立場から見れば選から漏れた以上、シード校喰いを達成するのもモチベーションのひとつになるかもしれませんが、もう一つ上のステージを目指すなら総合力をあげてシード権を取りに行くのも上位進出を目指す一つの方法だと思います。

幸い今期はその第一関門である近畿大会において快勝し、3月24日から埼玉県熊谷で行われる2022年度全国高校ラグビー選抜大会への出場権を獲得いたしました。本年度は昨季花園ベスト16メンバーの約半数が残留しており、布陣的にも昨季を上回る活躍が期待できると確信しています。今年創部70周年を迎え、遠藤祥部長、西條裕朗監督はじめ、泉光太郎ヘッドコーチ、木下友紀子コーチら熱い首脳陣指導のもと、部員たちも日々の練習を糧に新たなる躍進を目指し、目標に向けて邁進しています。今年こそラグビー部躍進の年としてぜひとも皆様のご声援をお願い申し上げます。

文責：野田義徳（68回卒）

ラグビー部

全国大会で初の優勝を果たしました！

報徳と東福岡が対戦する予定だった全国高校選抜大会の決勝（埼玉・熊谷ラグビー場）を東福岡の出場辞退で中止すると発表した。報徳は不戦勝となり、初優勝が決まった。報徳は冬の全国高校大会を含めて初の全国制覇で、兵庫勢にとっても春冬を通じて史上初の快挙となった。

県内のライバル関西学院との創部70周年記念招待試合（4月10日）より

15 スポーツ　2022年（令和4年）4月1日　金曜日　神戸新聞

全国高校選抜大会 ラグビー

報徳 兵庫勢初の日本一

戦いぶり堂々 決勝は不戦勝

準決勝で桐蔭学園下す

1世紀以上の悲願 歴史に足跡

過去の兵庫勢、準優勝が最高

神戸新聞
（2022年4月1日）

全国高校選抜ラグビー・報徳初V

挑み続け25年 つかんだ頂点

西條監督、創部70年の節目に

「一致団結」で壁破る

神戸新聞
（2022年4月1日）

神戸新聞
（2022年4月15日）

ラグビー報徳「自信になった」

全国高校選抜V 主将ら来社

全国制覇を振り返る報徳の（左から）植浦主将、木谷、西條監督、
尚老沢、元田校長＝神戸新聞社（撮影・秋山亮太）

名将 鶴谷邦弘監督伝説

教え子に託したタスキ人生

鶴谷邦弘陸上競技部元監督

プロフィール

昭和19年4月12日、兵庫県神戸市生まれ。報徳学園から日本体育大学へ進学。高校、大学時代は中長距離選手として活躍した。卒業と同時に母校へ奉職。陸上競技部監督に就任して高校駅伝の全国大会優勝をめざして試行錯誤を積み重ねながら昭和56年に初優勝へと導いた。同60年には全国高校駅伝史上初となる三連覇を達成、全国高校駅伝出場は16回を数え、優勝6回、準優勝2回。強豪校西脇工業との死闘を繰り返し「兵庫を制する者は全国を制する」との言葉も生んだ。報徳学園定年退職後は、大阪経済大学の監督として全日本大学駅伝へ出場させた。選手への愛情を忘れず、自主性を尊重した指導法や選手起用法は時に「鶴谷マジック」と称され、全国の指導者から高く評価された。平成30年1月30日没。享年73歳。

日体大時代

学生時代 浅野幸彦前報徳陸上部監督と

若かりし監督（前列右から3人目）

鶴谷先生の座右の銘

結果より経過を大切にしろ
「練習は人より早く始めて一番最後までやれ」
「試合は前を走れ、先頭を走れ、後ろを見るな、とにかく思い切って走れ、結果を考えるな」

この言葉は報徳陸上部が駅伝や個人種目で好成績を収めることができた源である。

「餅つきは1人では出来ない。
米を洗うやつ、せいろを運ぶやつ、
餅を丸めるやつ。すべての仕事が大事なんや。
分かったかこれは駅伝と一緒なんや。」

（年末恒例の先生ご自宅での餅つき大会より）

エピソード01　指導者としてのスタートはスパルタ主義の信奉者

新米教師として着任早々、頭の中には計画が出来ており、生徒を鍛えに鍛えて3年目には全国大会へ出場させる。それが自分の使命であり課せられた義務であると信じて疑わなかった。授業が終わるやいなや「さあ、やるぞ俺についてこい」と校庭で生徒を待ち構える。そんな日々が始まった。練習を始めて1週間目の頃、朝から雨が降り続いていた。一番に校庭に出て生徒を待ったが誰もでてこない。マネージャーは「今日は雨だから練習は中止の連絡をした。」「なにい。雨がどないした。練習はいつもの通りやる。」「でも、こんな雨が降っていたら走れません。こんな雨降りに外でやったことはないです。」この言葉を聞いたとたんになんにもわからなくなり、頭の中で何か爆発したようで自制心も何もなくなった。「陸上の選手が雨が降って練習ができんだと。お前らは俺の気持ちがわかっとらんのか。腐った精神たたき直してやる。」文字で書けばこういうことであったろう。気がつくとマネージャーが倒れていた。恐怖心に満ちた目で自分を見上げている。自分で何をしたのかよく分からなかったが両の拳の痛みと彼の表情が全てを物語っていた。マネージャーに罪はない。彼はいつものように室内練習を指示したのだろう。それが報徳のやり方であり自分がそれを知らなかっただけ。マネージャーはそれからすぐに陸上部を止めた。後日、家へ行き両親と本人に頭を下げて謝ったけれど彼は戻ってこなかった。この事件は自分にはそれほど影響を与えなかった。「やめたいものはやめたらええ。そんなあやふやな気持ちのものは他の部員に悪影響がある。」と思っていた。自分は全く未熟であったけれども世の中の空気がそういう風だった。一事が万事このような調子で大学時代に身につけた練習法を高校生の体力差を考慮せずそのまま実践させた。「先生。もう走れません」というのに「アホ、性根がすわってないからや」と棒を持って追いかけた。思えばマンガのような光景だがそれが厳しい指導だと本気で信じていた。

選手のレースを見つめる監督

エピソード02　監督としての仕事は我慢だ

こんな無茶な練習も、やらないよりは効果があった。陸上部を率いて3年目、昭和44年の県大会で準優勝する。その年は幸いにも5年に一度の記念大会。近畿代表として念願の全国大会出場権を得た。24歳の青年監督は大得意、「よし、全国大会でも上位入賞を狙うぞ」となんと大会直前に学校の寮で強化合宿をやった。体調を整える時期に、いつもよりハードな練習をこなした。その結果は出場57チーム中の55位。自分のしてきたことはなんだったのか。初めて自分の指導法に強い疑問を抱いた。昭和47年春、川西中から岡本一彦（65回卒 昭和49年茨城国体少年5,000ｍ4位14分49秒6兵庫高校新 ―当時―）が入学。この後、体現される報徳のチームカラーや、練習時の雰囲気―つまり「練習は明るく、楽しく、自分のためにやる」ということを、身をもって示してくれたのが岡本である。彼がいなかったらその後の報徳陸上部の躍進はなかったであろう。それほど部の空気をガラッと変えてしまった。この時期、他校と交流し合同練習や合宿に目を向け始めた。監督とは我慢が八割の仕事だとの思いに至る。選手一人ひとりが違う個性の持ち主であり、画一的な練習は意味がないどころか、害になることさえある、考えてみれば当然のこと。「これからは選手一人ひとりをできるだけ観察して、それぞれに何が適したやり方か考えよう。自分自身が変わらなければダメだ」と決心、指導者として10年目の再出発だった。昭和52年の県大会では、その後長きにわたりライバルとなる西脇工業が初優勝、全国大会で9位入賞した。翌年には、その“ライバル”をアンカー対決で破り昭和42年の就任以来、監督生活12年目での初V、報徳としては実に20年ぶりの県大会優勝。その勢いをかって全国大会では12位。その後の都大路では5位、準優勝と着実に順位を上げいく。そして昭和56年のシーズン、歓喜の時を迎える。

岡本選手の力走（ゼッケン332）